

# !!! 今月の SpotLIGHT



嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介して行くコーナーです。今月はこの方です。

(米空軍：アマンダ・グラフィック上等兵撮影)

第18航空団第18支援中隊コミュニティーサービス小隊  
しるま みなこ  
城間 美渚子さん



## Q1. あなたの職種と仕事の内容をお聞かせ下さい。

インフォメーション チケット トラベルという部署で、基地内のアメリカ人顧客に対し、地元イベントの紹介、各種チケット販売、県内ツアーの企画、県内ホテルの予約などを行っています。言わば旅行代理店に近い職種です。主に私が担当しているのは県内バスツアーです。県内の文化遺産、人気のある観光地、穴場的スポットまで、基地内のお客様が安全かつ円滑にツアーに参加して楽しんで頂けるように、交通機関、観光施設、宿泊ホテルを調べて、旅程を組み立てツアーを調整・企画しています。ハロウィーンのある10月には、基地内外にある幽霊屋敷へのツアーもあります。毎年大人気です。また、「サプライズ」企画をお願いされることもあります。例えば、結婚記念日や奥様の誕生日に、本人には内緒で、友人らを招き、しかもディナークルーズでお祝いするという、奥様にとってはまさに「サプライズ-驚き」を体験してもらおうイベントのお手伝いをしたこともあります。これからもアイデアを練って、斬新なツアーをどんどん企画していきたいと思っています。



(写真提供：米空軍嘉手納基地写真部)

## Q2. 職場のスタッフの人数は？

私を含む調整企画者11名、ツアーガイド9名、バス運転手3名の計23名です。私を含め日本人が13名で、残りのスタッフはアメリカ人10名です。ツアーガイドは日本人、米国人両方いますが、ほとんどが契約で働く臨時職となっています。私の勤務時間は、月曜日から金曜日の午前8時から午後5時まで。4年目になります。

## Q3. 仕事のやりがいをどういう点に感じますか？

私自身が企画した県内バスツアーが、出発から解散まで問題なく予定通りに進行し、お客様がこの素晴らしい沖縄を楽しんで頂いた時に、大きな達成感 充実感があります。とても責任のある仕事だからこそやりがいを感じます。また、町のイベントや祭り情報などを収集する際、観光施設の職員へ問い合わせをしたり、観光地周辺の地域の方々とお話しをしたりする機会があります。人々との出会いが私に多くのことを学ばせてくれます。新しい人間関係を築き上げることができるのもこの仕事の醍醐味です。

## Q4. この仕事の一番の課題は何ですか？

どのような観光地が最近ではトレンドなのかを調査し、企画を立てるところからツアーづくりが始まります。スポーツの試合観戦ツアーやアウトドア系ツアーなど、多様化するお客様の嗜好に合わせた企画をすることです。沖縄の歴史 文化をより多くのアメリカ人に知ってもらうことも大切だと思います。

## Q5. 同僚・顧客であるアメリカ人に対し、どういう印象をもっていますか？

職場のアメリカ人の雰囲気は、とてもフレンドリーです。意思表示がはっきりしていて表現が豊かな点も大変興味深いです。休暇後に職場に戻ってきたら、「アイ・ミス・ユー」ということは、おそらく日本の職場では上司からは言われることはないでしょうから。ツアーに参加するアメリカ人はとても好奇心旺盛で、様々な質問を投げかけてきます。例えば首里城の色は、何故赤なのかとか、鳥居の形は何故そのようになっているのかなどです。質問に答えられるように下調べは欠かせません。

## Q6. 同じ様な職種に興味がある日本人へのアドバイスは？

私の場合、英検2級レベルが必要とされてます。日本語で問い合わせをして、英語で企画書をまとめるというような仕事です。私はいろいろな人と会ったり話したりすることが好きなので、社交性のある人が向いているかもしれません。



(米空軍：アマンダ・グラフィック上等兵撮影)



(米空軍：アマング・ガービック上等兵撮影)



(嘉手納基地広報局、普久原 尚子 撮影)



(米空軍：クリスティン・ベスト三等軍曹撮影)



(米空軍：クリスティン・ベスト三等軍曹撮影)

2008年10月19日（日曜日）午前、嘉手納基地第4ゲート近く(嘉手納町水釜)で発見された不発弾を撤去する作業が行われました。嘉手納町役場を中心とした対策本部がおかれ、嘉手納基地の主要部隊である第18航空団、嘉手納署、南部国道事務所他関係機関代表者が嘉手納町西区コミュニティセンターで午前7時半から集合しました。避難対象区域に住む住民の避難誘導ののち、国道58号線や町内道路の車両交通を一時遮断して、不発弾撤去作業が行われました。不発弾は基地内を特殊車両で搬送され、同日、嘉手納弾薬庫内にある不発弾処理施設で無事爆破処理されました。



(嘉手納基地広報局、普久原 尚子 撮影)



(米空軍：アマング・ガービック上等兵撮影)

## 嘉手納基地隊員、日本側緊急対応チームとの合同救難訓練

第18航空団広報局



(米空軍：クリスティン・ベスト三等軍曹撮影)

2008年10月8日、第18航空団は、米軍戦闘機が沖縄近海に墜落したという想定で、日本側の緊急対応チームと海上における日米合同訓練を行いました。日本側からは沖縄危機管理官や海上保安本部をはじめ、航空自衛隊、沖縄県警、消防等の緊急対応チームが参加しました。訓練の想定に基づき、2名のパイロットが墜落直前に緊急脱出した後、パイロット1名は第33救難中隊のヘリに救助され、もう1名は海上保安本部のヘリに救出されました。さらに、海上保安本部は墜落した航空機の残骸で負傷した漁民を救助するという想定も含まれました。訓練の目的は事故が発生した場合において日米双方機関が連携して相互運用能力を向上させることにあります。訓練調整を担当した第18航空団の監査課長フェンセロイ少佐は「今回の訓練を通して、日米各機関が安全で迅速な救難活動を行うことができる事を確認した」と述べました。訓練を実行するにあたり、各機関の役割や責務の違い等をお互いに理解し、異なった周波数を使用しながら通信を取り合うといった調整等を行ったとのこと。迫田裕治沖縄危機管理官は「万が一、事故が発生した場合に日米共同で対処できる能力がある事を今回の訓練で確認できました。重要な一歩前進になったと思います」と話し、フェンセロイ少佐も「緊急対応手順の相互理解を高め、双方機関が持つ航空機、船舶など資産をいかに駆使して迅速かつ最善の対応がとれるのか、ということが重要だと思う」と訓練を評価しました。



(米空軍：アマンダ・カービック上等兵撮影)



(米空軍：クリスティン・ベスト三等軍曹撮影)





(写真提供：北谷町)

北谷町役場の埋蔵文化財担当主査の中村さんの説明にも熱が入ります。

2008年10月23日、北谷町のおよそ45名の住民が、嘉手納基地内にある文化史跡を視察しました。この視察は北谷町が主催する「平成20年度平和祈念祭における戦跡遺構巡り」の一環事業として、北谷町役場と嘉手納基地広報局渉外部との調整を経て行われました。北谷町はこの祈念祭を1995年から実施していますが、町の要請に基づき、2年前から嘉手納基地内視察が始まりました。

10月22日は、北谷町民にとって、歴史的な記念日にあたり沖縄戦後疎開先から北谷町民が町内に戻り、ふるさとの復興が始まった日ということです。毎年10月22日から31日は「北谷町平和推進旬間」

として条例で定められ、様々な記念事業が開催されています。その事業の中の一環として町内に所在する史跡を視察し、その歴史の意味に町民は様々な思いを巡らします。嘉手納基地内にある歴史遺産の見学の目的もその延長線上にあります。北谷町役場町長室の安次嶺承一室長によると、基地内に入れる機会が少ないことや基地内に所在した村落の出身者が多いことなどの理由で、参加希望者が多いということです。

今回の嘉手納基地内視察で、参加者は、嘉手納監視哨跡地、旧日本軍野戦病院跡地、シーグワと呼ばれる拝所、沖縄戦降伏調印の跡地、旧日本軍格納庫跡地、そして井戸として使用されていたニシヌカーとフェーナカーを視察しました。各所で、嘉手納基地広報局渉外部の渉外官と北谷町役場の埋蔵文化財担当主査がガイド役として説明を行い、参加者は感慨深げにその歴史文化的な意義に聞き入っていました。

嘉手納基地内には拝所、御嶽、村落跡地、お墓、井戸、沖縄戦に関する遺構などの歴史的な文化財が数多く存在しています。第718施設中隊環境小隊により保護され、米軍独自の予算を使って整備されている箇所もあります。

北谷町の上勢頭区に住んでいる濱崎まなみさんも参加者の一人。これまで本島南部の戦跡を主に見学したことはあるが、嘉手納基地を訪れ史跡を見学するのは、今回が初めてということです。「自分の子供たちにも町内や基地内に所在する史跡を伝えることができれば」と参加の動機を語り、「基地内にもこのような史跡が、今でもきれいに保存され残されていることはとても印象的です」と、感想を述べていました。



(写真提供：北谷町)



(写真提供：北谷町)

嘉手納基地広報局渉外部、崎浜渉外官の説明に、時にはメモを取りながら熱心に耳を傾ける北谷町の皆さん。基地内に点在する各所へは皆さんバスで移動しました。